

能登半島地震 復興支援ニュース

第1号

2024.2.23

現地支援の報告と当面の活動について



2月17日 能登町にて

能登半島地震発災以降、地元のコープいしかわが基本窓口となり、日本生協連、コープ北陸などと連携して支援活動にあたっています。パルコープでは、日生協関西地連を通して現地で必要とされる要請に応じています。2月に入り、物資だけでなく現地での支援活動も始まっています。

地震から1ヶ月半経っているにも関わらず、まだ倒壊したまま手つかずの民家や道路が無数にある状態で、交通状況が悪くボランティアの受け入れ態勢も整っていないことから、引き続き県連・日生協と連携した支援を行うことが現地にとって最善として、できる支援に取り組みます。



組合員理事さんを中心に被災地へのメッセージをいただき、避難所へバレンタインチョコをお届けすることができました！

■これまでの動き

1月5日	パルコープ店舗で募金箱の設置がスタート
1月8日	共同購入での募金案内がスタート（HPにて）
1月15日	日本生協連によるコープいしかわへの派遣支援スタート（全国生協から週あたり約30名の派遣）
2月5日～9日	パルコープからも応援を派遣（支所職員2名、共済職員1名）
2月7日～8日	JAいなば、コープいしかわなどお見舞い訪問・現地視察（役員4名）
2月15日	コープ福祉機構による介護職員の派遣支援スタート パルコープからも福祉職員を派遣（2名）
2月16日～18日	大阪府生協連によるボランティアバスに参加（役職員10名）



◀2/5～9
能登地方北部の穴水町で宅配を再開するにあたって、配送同乗の支援に入りました。コープいしかわの方と出発前に地図を確認の様子。



■2/7~8 お見舞い訪問・現地視察



JAいなばをはじめ、石川県連が立ち上げたコープ被災地支援センター、コープいしかわを訪問。コープいしかわに対してお見舞金と目録をお渡ししました。

「全国の支援のおかげで事業継続が出来ており、配送職員も全国の仲間に元気もらっています」とお礼の言葉をいただきました。それぞれ伺った中身と現地の状況から、被災地に寄り添い息の長い支援の在り方を模索する必要性を感じました。

写真：永岡常務（左）コープいしかわ 吉本専務（右）

■2/16(金)~18(日) 能登地方ボランティアバス

大阪府生協連の呼びかけのもと、パルコープからは支所長・店長をはじめ10名の役職員が参加し、総勢30名で炊き出しを行いました。炊き出しは能登町の2ヶ所で行い、たこ焼き・きつねうどん・炊き込みご飯・豚汁・コーヒーを振る舞いました。炊き出しの際「飲料水の配布はありますか」「その水をください」と聞かれるほど現地では水が不足していて本当に切実な状況ということが分かりました。どちらも行列ができるほどで、450~500食分を提供し喜んでいただけました。

元旦の地震発生以降、震度1以上の地震が1600回を超えており、17日だけでも4回の地震がありました。東日本大震災の時に規模は違うものの、道路の隆起・陥没が至るところにあり、1ヶ月以上経ってもなお震災直後かのような光景がありました。電気は復旧したものの断水状態が続いていることなど、支援の手が行き届いていない状況を目の当たりにし、復興にはまだまだ時間がかかると参加した全員が感じる状態でした。



大阪といえばたこ焼き！



ずら~っと長蛇の列



参加者の感想

- ・大分県から別府温泉のお風呂が提供されていましたが、お風呂上りに温泉の成分を掛け流す必要があり、それができないのでかえって足が遠ざかっていると聞き、本当に必要な支援とは何かを考えさせられました。
- ・初めて会う他生協の方と同じ目的の為に協力しあうことのすばらしさ、達成感がありました。パルの多くの職員がボランティアに参加し、色々な気付きにもなればいいと思います。

募金総数：25,011名 34,559,200円(2024/2/19現在)